

No.801 2011年9月12日

ARIBの動き

第 88 回電波利用懇話会を開催
～ 920MHz 帯電子タグシステムの導入について ～

9月6日(火)に、第88回電波利用懇話会を当会の会議室にて開催しました。

今回は、総務省 総合通信基盤局 電波部移動通信課 谷口 宏樹 課長補佐を講師にお迎えし、「920MHz 帯電子タグシステムの導入について」というテーマでご講演いただき、約90名の会員の皆様方に受講していただきました。

講演では、情報通信審議会から本年6月に答申された「920MHz 帯電子タグシステム等に関する技術的条件」を踏まえて、700/900MHz帯の周波数再編の状況と、それに伴った920MHz帯への電子タグシステムの移行手順や課題について、説明をいただきました。

全体をとおして受講者の高い関心を集め、熱心に聴講していただき、900MHz帯再編における開設指針の内容や発表時期、周波数移行に関する費用負担などに関して、数多くの質疑応答が行われました。

なお、講演のプレゼンテーション資料については、当会のWebサイト「お知らせ・お問合せの講演会等開催案内 (<http://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)」において、ダウンロード公開しています。



第 88 回電波利用懇話会の様子と講師の谷口様

V-High マルチメディア放送を行う移動受信用地上基幹放送の業務の
認定申請受付結果

【平成 23 年 9 月 6 日の総務省報道資料から】

総務省は、平成 23 年 8 月 3 日（水）から同年 9 月 2 日（金）までの間、地上テレビジョン放送のデジタル化に伴い利用可能となった 207.5MHz 以上 222MHz 以下の周波数を使用して行う移動受信用地上基幹放送（以下「V-High マルチメディア放送」という。）の業務の認定申請を受け付けたところ、1 者から申請がありましたので、申請者の概要について公表します。

1 申請概要

- ・ 13 セグメント形式の OFDM フレーム（セグメント数：13）を希望する申請者（1 者）

申請者	代表者名	主要株主
株式会社 mmbi	代表取締役社長 二木 治成	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

2 今後の予定

今後、受け付けた申請について審査を行い、電波監理審議会への諮問・答申を経て、速やかに V-High マルチメディア放送の業務の認定を行う予定です。

700/900MHz 帯移動通信システムに係る参入希望調査の結果の公表

【平成 23 年 9 月 6 日の総務省報道資料から】

総務省は、700/900MHz 帯移動通信システムの導入に向けた制度整備の検討に当たっての参考とするため、現時点で参入を希望している方の状況について、本年 8 月 2 日から同月 31 日までの間、調査を実施しましたので、その結果の概要を公表します。

1 提出者

提出件数 4 件

<内訳：五十音順>

イー・アクセス株式会社

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ

KDDI 株式会社及び沖縄セルラー電話株式会社

ソフトバンクモバイル株式会社

2 調査結果の概要

各者の回答の概要は、次頁のとおりです。

【関係資料】

[700/900MHz帯移動通信システムに係る参入希望調査の実施（平成 23 年 8 月 2 日）](#)

700/900MHz帯移動通信システムに係る参入希望調査の結果概要

提出者名	イー・アクセス株式会社	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	KDDI株式会社及び 沖縄セルラー電話株式会社	ソフトバンクモバイル株式会社
1 導入を希望するシステム	<ul style="list-style-type: none"> - 競合他社との競争力確保 - 高速なデータ通信の導入 - カバーエリアの拡大 - トラヒック増への対応 	<ul style="list-style-type: none"> - トラヒック増への対応 	<ul style="list-style-type: none"> - トラヒック増への対応 - 高速なデータ通信の実現 	<ul style="list-style-type: none"> - 加入者・トラヒック増への対応 - 800MHz帯保有の競合他社と同等のカバーエリアの展開 - 災害に強いインフラ構築
2 周波数割当てに関するシステム	<ul style="list-style-type: none"> 900MHz帯:平成24年にLTEを導入 700MHz帯:平成26年以降LTEを導入 都市部から展開し、認定後5年を目途に人口カバー率99%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 認定後早期にLTEを導入 高トラヒック地域から展開し、早期に全国展開 	<ul style="list-style-type: none"> 900MHz帯又は700MHz帯において15MHz幅×2 	<ul style="list-style-type: none"> 900MHz帯又は700MHz帯において15MHz幅×2
3 その他御意見	<ul style="list-style-type: none"> - 割当て周波数でのLTEの導入 - MNO間のネットワークシェアリング・SIMフリー端末の提供 - 人口カバー率・計画の確実性 - LTEの人口カバー率・料金水準 - ネットワーク開放度(MVNOユース比率・SIMフリー端末比率) - ネットワークの信頼性 - 周波数イコールフルツッピング 	<ul style="list-style-type: none"> - システムを安定的に運用する能力・財務的基礎 - 電波の有効利用を促進する技術力 - 周波数の逼迫度合い(単位周波数当たりの利用者数) - 研究開発能力・国際標準化の実績等の有無 	<ul style="list-style-type: none"> - 周波数の有効な利用計画 - 周波数移行に係る財務的基礎 - 従来サービスからの連続性 - 研究開発・新サービスへの取組 	<ul style="list-style-type: none"> - 周波数の利用実績 - 周波数移行に係る財務的基礎 - 900MHz帯は800MHz帯の未割当者に限る - 負担可能額の多寡より周波数の逼迫度合いを最優先 - 800MHz帯の未割当者を優先 - 積極的な設備投資実績
4 既存無線局の周波数移行について留意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> - 移行費用の適正化・明確化 	<ul style="list-style-type: none"> - 既存無線局に関する詳細情報等の提供と十分な検討期間 - 交渉窓口の一本化、手続の簡素化・簡略化 	<ul style="list-style-type: none"> - 既存免許人による期限・費用等に係る情報の適切な提供 - 移行費用の範囲の明確化 - 仲裁機能等の仕組みの確立 	<ul style="list-style-type: none"> - 移行システムに関する詳細情報の公開 - 移行費用の適正化・明確化 - 関係者における交渉窓口設置
5 その他御意見	<ul style="list-style-type: none"> - 700/900MHz帯の一方の帯域の認定者は他方の認定を受けられないようにすることも考慮 	<ul style="list-style-type: none"> - 700MHz帯のTV受信系装置に対する検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> - 700/900MHz帯は一括して扱い、一方の認定者は他方の認定を受けられないようにすべき - 700MHz帯のTV受信系装置に対する検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> - 900MHz帯の周波数割当て時期は、機器調達等の観点から、本年中(利用開始半年前)に確定すべき

超高精細度 TV スタジオ設備開発部会

音響システム検討作業班 主任 渡辺 馨

(NHK 放送技術研究所 テレビ方式研究部 主任研究員)



音響システム検討作業班の主任を務めております渡辺です。

この作業班は、ハイビジョンを超えるテレビジョン放送を実現するための研究開発と標準化を目的に設立された「超高精細度 TV スタジオ設備開発部会」のもとで、次世代テレビ方式の音響に係わるスタジオ規格の作成を目指して活動しています。放送における音声は、AM ラジオ放送から始まり FM ラジオ放送でのステレオ音声、BS アナログテレビ放送の B モードデジタル音声、デジタル放送の 5.1 マルチチャンネル音声へとハイファイ化、高臨場感化が進んできました。この 5.1ch 音響方式を超えた高い臨場感をもつ音響方式の研究開発と標準化に取り組んでいます。

現在は、前後左右からの音の到来に加えて上下からの音の到来も再現することで、あたかもその場にいるかのような自然な音が再現できる高臨場感「三次元マルチチャンネル音響方式」のスタジオ規格について検討し、グローバルな規格を目指して ITU-R に提案をするなど、標準化に資する寄与文書の作成などを行っています。この高臨場感音響は、同開発部会の映像システム検討作業班で検討されている水平・垂直ともハイビジョンの 2 倍または 4 倍の高精細度をもつ高臨場感映像と組み合わせられて、放送をさらに豊かなものにするでしょう。

私は、このほか、品質評価法調査研究会やデジタル放送システム開発部会で、標準化や調査研究の ARIB 活動に携わって参りました。標準化作業に参加するものとして、「最新の技術やサービスを研究開発しつつ、諸外国の動向をみながらユニバーサルな標準を目指す」ことが大事だと思います。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

編集後記

以前小欄で、我が家（川崎市在住）の UHF アンテナによる地デジ受信状態が、あまり良くない（たまにデジタル特有のブロックノイズが発生する）と書きましたが、先日のアナログ停波以降は、何故か良好です。そうすると、今度は東京スカイツリーへの移行期間や完全移行後の受信状態がどうなるのかが、気がかりです。 (S.K)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp